
モトカレ。。。～愛をあなたに～

神田 ジュン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モトカレ。。。 ～愛をあなたに～

【Nコード】

N5518C

【作者名】

神田 ジュン

【あらすじ】

突然、彼氏に別れを告げられてしまった彼女。その失恋のなかで、真実の愛を見つける。そして、その後彼女のとった行動は？？

（前書き）

以前書いた「モトカレ。。。」の別パターンのエンディングです。
人により、いろいろエンディングは変わると思いますが、こんな
のもアリだなwつとwむしろ作者はこっちのパターンが多いかな？
？w途中まで、まったく一緒ですので、飛ばしちゃってください
結構ですw

エンディングは違います。

「もう2度と恋なんてしない！絶対しない！」

決めたのが夏の終わりだった。

私は、もう恋なんてしない。

こんな思いをするのならば、しないほうがマシだ。

最後に残るのは、二人でとった写真と、捨てきれない思いだけ。

・・・もう嫌だ。

こんな思い。

なにより、自分が嫌になる。

消えてなくなりたい。

バイバイって。。

そしたら、どんなに楽だろう・・・。

なにも考えないようにしても、すぐに頭の中に彼がでてくる。

あ、もう元彼か。

洗濯をしてても、買い物をしてても、掃除をしてても、料理をして

ても、

友達とあそんでいても、ネコのまめぞうとたわむれいても、

大好きなお笑い番組をみていても、・・・こっちの都合はおかまいなしに、

彼が頭の中に入ってくる。

彼のことで頭がいっぱいになる。

胸が苦しくなる。。。

もう、涙はかたたつて思ったのに、また涙が溢れ出す。。。

彼のところばかり考えてしまう。。。

ちょっとハスキーな声で、笑うとエクボができる、ちょっとドジでオッチョコチョイな彼。

大きくて暖かいゴツゴツした手。

まわりに常に気を使って、誰にでもやさしく接する彼。

服のセンスはいまいちだけど、子供っぽくてかわいい彼。

彼を創ってる全ての要素が、私は好きだった。

彼なしでは、生きていけない・・・本気でそう思った。。。

だけど、別れは突然やってきた。

「じゃあ、元気でな。幸せになれよ。」

彼の最後の言葉。。。

なんで？

あなたと一緒にいれるだけで、わたしはとても幸せだったのに。

あなたとなりになれるだけでよかったのに・・・。

どうして・・・。

私は、その場で泣く事しか出来なかった。

彼の言葉を受け止めたくなかった。

受け止めてしまったら、私は壊れてしまう。

彼は、私の体の一部なんだから。

その彼が、私からいなくなってしまう。。。

いや!!

そんなのいや!!!!

・・・

私は泣き叫ぶことしか出来なかった。。

それから、三日三晩、泣きとおした。

苦しいよ。

悲しいよ。

なんでこんなにも、胸が苦しんだろう。

なんでこんなにも、つらいんだろう。

なんで、こんな思いをしなくてはいけないの？

なんで・・・。

「もう恋なんてしない！絶対しない！！」

本気でそう思った。

こんなつらい思いをするのなら、はじめから付き合わなければよかった。

彼と出会わなければよかった。。

そうすれば、こんなに苦しい思い、しなくていいし、傷つきもしない。

・・・

・・・

でも、そしたら、・・・彼との素敵な思い出もない・・・。

一緒に行った花火大会。浴衣姿がかわいって、言ってくれた・・・。

一緒に見に行った映画。そこではじめて手をつないだんだよね。内容なんてそっちのけで

ドキドキしてたっけ。

はじめて行った海。水着姿はちょっと恥ずかしかったけど、彼の為にがんばったなあ。

初めての彼の部屋。タバコの臭いがする彼の部屋。一緒に撮った写真を飾ってもらったよね。

・・・

どれも、私にとって大切な思い出だよ。。

失いたくない、彼との大切な思い出・・・。

また、涙が溢れてきた。

・・・でも、その涙は、さっきまでの涙とは違うって私にはわかって

た。

ポタポタ落ちる涙・・・。

ああ、彼の存在は、私の中で、こんなにも大きな存在だったんだ・・・。

そのとき、はじめて気が付いた。

彼の存在。

彼のやさしさ。

彼の愛を。。。

彼は、私を愛してくれた。

誰よりも、私だけを愛してくれていた。

そう思えるよ・・・。

・・・。

私は？

私はどうだった？

私は何をしてあげた？

彼に何かしてあげた？

・・・。

なにも。

なにもしてあげてない。

ただ、私は幸せになりたいって思ってただけ。

彼なら、幸せにしてくれるって、思っただけ。

・・・思ってただけ・・・。

私は・・・

甘えてたのかもしれない・・・。

彼の優しさに・・・。

私は・・・

自分勝手だったのかもしれない

彼の愛を盾にして・・・。

私は・・・。

・・・バカ・・・。

もっと、彼を大切にしていればよかった。

もっと、彼に優しくしていればよかった。

もっと、彼を愛していればよかった。。。

後悔。

そして、自己嫌悪。

いまごろ、気づいた。

もう、遅いのに。

もう、なにかも。。。

彼は私から、飛び去ってしまった。

いや、去ったのは私のほうかもしれない。

私が悪いの。

私が「愛」を知らなかったから。。。

ごめんね。。。

ごめん。。。

そして、ありがとう。。。

私に【愛】をくれた人。

私に【愛】を覚えてくれた人。

もう、いまさら彼には何もしてあげることができない。

ごめんね、ほんとうに。

あなたは、本当に私の大切な人だよ。

これからも、ずっと。。。

。。。

。。。

や、やっぱ、無理だよ。。。

彼を・・・このまま思い出にすることなんか、私にはできないよ・・・。

だって・・・彼のこと、愛してるんだもん。

神様、お願いします。。。

もう、わがままいいませんから、

だから、もう一度、私にチャンスをください。

彼が私にしてくれたこと・・・今度は、私が彼にしてあげたい。

ごめんね・・・。

私、バカだよな・・・。

失ってから、本当に大切なものに気付いたよ・・・。

なんで、もっと前に気付けなかったんだろう・・・。

私は、彼が好き！

すっごい好き！

もう、手遅れかもしれないけど、

本気でそう思うから、

だから、私は彼に会いに行く。

もう元には戻らないかもしれないけど、

そうしないと、前には進めないから。

彼に私をぶつけてみる。

後悔だけは、もうしたくないから。

私は、もう、後ろは振り返らないと決め、全速力で走り出した。

カレのもとへ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5518c/>

モトカレ。。。～愛をあなたに～

2011年1月26日15時32分発行